

奥 直人 (Naoto OKU)

静岡県立大学薬学部 (School of Pharmaceutical Sciences, University of Shizuoka)

日本薬学会の会頭を拝命して早や一年が経過した。日本薬学会の学会員は、くすり・薬学という共通認識の基に集まっているが、学会がカバーする分野は医療機器、再生医療、予防医学を含めた健康や医療全般にかかわる広範な分野となってきた。我が国では付加価値の高い「くすり」とともに医療や介護関連の産業は、今後も重要な意味を持つであろう。学会の重要な仕事は、薬学全体の発展と学会員を支援することである。学会の情報誌および学術誌の発行、年会やシンポジウムの開催はその一つである。

日本薬学会が刊行している学術誌は英文2誌と薬学雑誌であるが、学会員等のニーズに合わせて改革しつつ、学術誌等の充実・発展を図っている。また現在、オープンアクセスジャーナルの新たな発刊も準備している。情報誌であるファルマシアは、毎号充実した内容となっており、一部フリーアクセス化もできている。

日本薬学会の国際化が以前から課題となっている。国際創薬シンポジウム、国際交流シンポジウム等を行ってきたが、今後も国際化を推進する。FIP (国際薬学連合) や AFMC (アジア医薬化学連合)、およびドイツ、アメリカ、韓国の薬学会との交流に関しても積極的に進めていく。できれば交流からさらに一歩踏み込んで、海外在住の方が薬学会員となる仕組み考えた上で、海外会員制度を作り充実させていきたい。

次世代若手研究者の支援に関する取組みについては、「長井記念薬学研究奨励事業」が順調に機能している。薬学生および大学院学生が、早い時期から学生会員になるような仕組みを考えたい。さらに次世代を担う高校生以下に薬学に興味を持ってもらうために、日本学術振興会の卓越研究成果公開事業を通して、ネット上で薬学研究に関する情報を公開する準備を進めている。

本講演ではこれらの内容を含め、本学会の現状と展望、および薬剤師教育や薬学を取り巻く環境への対処について述べたい。